

## 略 歴

1991年 東京医科歯科大学医学部卒業  
同年 虎の門病院内科レジデント（前期2年、後期3年）  
1996年 虎の門病院血液科医員  
1999年 医師3名によるグループ診療の形態であおぞら診療所を開設  
2004年 あおぞら診療所院長  
2012年 医療法人財団千葉健愛会理事長

## 役 職 その他

松戸市医師会 副会長  
松戸市在宅医療・介護連携支援センター 管理責任者  
松戸市介護保険運営協議会 会長  
松戸市地域ケア会議 会長  
東京医科歯科大学 臨床教授  
日本在宅医療連合会 副代表理事  
日本プライマリ・ケア連合学会 代議員  
全国在宅療養支援医協会 代議員

## 学会資格

日本内科学会 総合内科専門医  
日本在宅医療連合会 在宅医療認定専門医  
日本プライマリ・ケア連合学会 認定医（指導医）

## これまでの主な活動

KDB を用いた医療・介護連携に係る地域の特性に関する調査研究（2018年度～、厚生労働省保険局医療介護連携政策課、座長）  
適切なケアマネジメント手法の策定に向けた調査研究事業（2018年度～、厚生労働省老健局振興課、ワーキンググループ座長）  
松戸市在宅医療・介護連携支援センター（2018年度～、管理責任者）  
在宅医療・介護連携推進事業（2016年度～、松戸市医師会在宅ケア委員会）  
まちっこプロジェクト（2015年度～、松戸市医師会健康啓発委員会）  
摂食嚥下障害を有する高齢者の地域支援体制の取り組み収集、分析に関する調査研究事業（2014年度、厚生労働省老健局老人保健健康増進等事業、委員長）  
救急医療と在宅医療の有機的な連携に関する研究（2014年度、在宅医療助成勇美記念財団）  
介護支援専門員の資質向上及びケアマネジメントの質向上に資する研修制度に関する調査研究事業（2013年度、厚生労働省老健局老人保健健康増進等事業、委員）  
地域包括ケア研究会（2012～2013年度、厚労省老健局、委員）  
在宅医療連携拠点事業（2011～2012年度、厚生労働省医政局モデル事業）

東京大学高齢社会総合研究機構在宅医療推進寄付プロジェクト（通称：柏プロジェクト）

（2010～2013年度、在宅医療研修プログラム作成小委員会、委員）

がん対策のための戦略研究「緩和ケア普及のための地域プロジェクト」OPTIM

（2008～2011年度、連携促進委員会、委員長）

## 著書

「在宅医療バイブル第2版」（2018、日本医事新報社、編著）

「今日の治療指針」（2018年版～、医学書院、編著）

「介護職のための医療とのつきあいかた」（2016、メディカ出版、編著）

「介護支援専門員実務研修テキスト」（2016、長寿社会開発センター、編著）

「介護支援専門員基本テキスト」（2015、長寿社会開発センター、分担執筆）

「介護職員初任者研修テキスト」（2015、長寿社会開発センター、分担執筆）

「在宅医療バイブル」（2014、日本医事新報社、編著）

「日本緩和医療学会 在宅緩和ケアのための地域連携ガイド」（2008、青海社、分担執筆）

「プライマリ・ケア救急」（2007、プリメド社、編著）

「在宅医療・介護基本手技マニュアル改訂第2版」（2005、永井書店、分担執筆）

「君はどんな医師になりたいのか」（2002、医学書院、共著）

「レジデント臨床基本技能イラストレイテッド」（1998、医学書院、編集）

「学生のためのプライマリケア病院実習」（1995、医学書院、共著）

「初期プライマリケア研修」（1994、医学書院、共著）

## 論文

第114回日本内科学会総会特別シンポジウム「理想の内科医像」講演会記録

「患者の人生に寄り添い、病院と地域をつなぐ医師」

（日本内科学会雑誌 第106巻 第9号 p2054-2057、2017）

会員のための企画「進行がん患者を看取りまで支える在宅医療」

（日本外科学会雑誌 第118巻 第5号 p551-555、2017）

医学と医療の最前線「在宅医療の現状と課題」

（日本内科学会雑誌 第103巻 第12号 p3106-3117、2017）

Ishibashi F, S Kawagoe, et al: Performance of severity scores for home-care based patients suffering from pneumonia. Geriatr Gerontol Int 2014 Mar 12doi: 10.1111/ggi.12274.

## 受賞

日本在宅医学会佐藤智賞（2014年日本在宅医学会第16回浜松大会）

第1回杉浦地域医療振興賞（2012年度）